



1



2



3



4

先を見据えた農業経営

町の最西部に位置する若洲地区。約332町、東京ドーム約70個分もあるこの広大な農地の一角で、本山満さん(59)は、ミニトマトやメロン、ブロッコリー、飼料用稲などを栽培している。

両親が農業をしていたこともあり、高校卒業後すぐに就農した本山さんはこの道40年以上。自然相手の仕事であるため、天候は常に気を掛けて対応しているが、時には自然災害にさらされることも。

37歳まではイグサを栽培していたが、平成11年の台風18号で高潮被害を受け、転作を余儀なくされた。

以降、大玉トマトやキャベツ栽培などを経て今に至るが、「それぞれやり方が全然違うんで苦労しました。」という。そんな時にもらった近隣の農家さんからのアドバイスが今でも活かしている。また、異業種の経営者と積極的に情報交換し、自身の農業経営の糧にした。「目先の損得ではなく、5年先を見越した経営を意識しています。」と

話す本山さん。

当面の目標は、数年以内に考えている長男・裕也さん(32)への経営継承のため、自身の持つ技術や経営の考えを伝えること。

「農作物の知識や機械操作など、日々の仕事ぶりは問題ない。あとは人を動かす力と経営力を備えて欲しいですね。」と期待を寄せる本山さん。

農地利用最適化推進委員を務めるほか、若手に農業経営のアドバイスをするなど、地域の農業振興にも意欲的に取り組む。

- ① ブロッコリーの定植を外国人技能実習生に指導。この日は3台の定植機を同時に稼働し1町を定植した。
- ② 後継者の長男・裕也さん(左)と作業の段取りを話し合う。
- ③ 現在13人の実習生を受け入れている。カメラを向けるとみんな笑顔。
- ④ 農地利用最適化推進委員として、毎月開催される農業委員会総会に出席。

※ 町 … 主に農地面積を表す場合に使われる単位。小さい順に「歩」、「畝」、「反」、「町」の単位がある。1町は100m × 100m とほぼ同じ面積。

まちの「がんばりびと」を紹介

住人十彩

2021 October
#18 ~本山 満さん(若洲)~



本山 満(もとやま みつる) 農業経営者

昭和37年2月9日生まれ(59歳)
八代農業高校卒業後、農業を始める。28歳で父から経営を継承し、外国人技能実習生を受け入れるなどして徐々に生産規模を拡大。
平成30年から現在まで農地利用最適化推進委員を務めるなど、担い手育成や地域の農業振興にも尽力。
今年7月に「株式会社 本山農産」を設立。